

平成30（2018）年度  
自己点検・評価報告書  
（抜 粋）

鎌倉女子大学 初等部

## 1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立と共生の未来社会を志高く、夢と希望をもって「感謝」と「奉仕」に生きる人づくり。</li> <li>【学習指導の指針】 ぞうきんと辞書をもって学ぶこころの形成。</li> <li>【生活指導の指針】 人・時・物を大切にすることの形成。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の教科等指導及び生活指導の全般を通して、初等部の教育理念である「感謝と奉仕のこころ」の形成を核に、「ぞうきんと辞書をもって学ぶこころ」と「人・物・時を大切にすること」の形成に取り組んだ。</li> <li>・学習指導においては、特に次のことに取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 授業の始めと終わりの挨拶をはじめ、学習規律を守り、主体的な学習態度が身に付くような指導に取り組んだ。</li> <li>(イ) 「ていねいできめ細かな指導」を全教職員が意識し、質の高い、分かる授業を展開していった。</li> <li>(ウ) 全教職員の日常的な授業改善に結び付くよう、年間を通して計画的に研究や研修に取り組んだ。</li> <li>(エ) すべての教科等にバランスよく取り組めるよう、どの教科等においても教材研究等をもとに工夫した授業を展開していった。</li> </ul> </li> <li>・生活指導においては、特に次のことに取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 修養の鐘や修養日誌、校門での一礼指導を通して、「感謝と奉仕のこころ」の形成とともに、「ぞうきんと辞書をもって学ぶこころ」と「人・物・時を大切にすること」の形成に努めた。</li> <li>(イ) 児童健全指導育成担当者による朝礼等での全体指導や月訓の掲示を通して、児童の自主的・自発的な実践力の育成に取り組んだ。</li> <li>(ウ) 生活全般にわたって異学年で活動する課外・課内クラブや委員会活動、異学年で出かける春の遠足や運動会の合同演技等を通して、感謝の気持ちや奉仕の気持ちを育む教育活動に取り組んだ。</li> </ul> </li> <li>・年度後半には学習規律をきちんと守り、授業に集中できる子どもが増えてきた。</li> <li>・教科の授業を中心に、高学年になるにつれてアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、他者との関わりのなかで、共に成長しようとする姿や主体的な学習態度が見られるようになってきた。</li> <li>・特別の教科道徳では、新学習指導要領で提唱されている「考え議論する道徳」の授業が実践できるようになってきた。</li> <li>・登下校のバスの乗り降りの際にも、「お願いします」、「ありがとうございました」の挨拶ができる児童が増えてきた。</li> <li>・学習発表会、運動会、みどり祭等の学校行事において、リーダーシップを発揮する6年生が増えてきた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神をもとにした教育理念及び教育目標の実現に向け、初等部の教育課程の不断の見直し、児童指導の充実、保護者との更なる信頼関係づくりに取り組んでいく。</li> <li>・より良い学校運営を目指し改訂した初等部組織をもとに、年間を通して確実な教育実践に努め、節目においては適切な評価をし、年度途中であっても改善に結び付けていく。</li> </ul>

1-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「初等部中期目標」をもとに、これまでを見つめ、これからを見据えた信頼と思いやりの学校づくり。</li> <li>【具体目標】</li> <li>・「豊かなこころ」と「確かな学力」、「健やかなからだ」を身に付けた品位ある初等部生の育成。</li> <li>・「ていねい」で「きめ細かな」授業の日常的な実施。</li> <li>・自主性・自発性と創造性の育成。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「初等部中期目標」に沿って、中・短期目標をもって経営と運営の充実に取り組んだ。その重点取り組み目標の観点は、次の9つである。「1. 学校運営」「2. 学習指導」「3. 児童指導の充実」「4. 人材育成と教師力の向上」「5. 募集力の向上」「6. 進路進学指導」「7. 学校防犯・防災」「8. 学校安全・健康衛生」「9. その他」。</li> <li>・特に「学習指導」と「児童指導の充実」、「人材育成と教師力の向上」に取り組んだ。</li> <li>・「1. 学校運営」については、「8. 組織運営」を参照。</li> <li>・「2. 学習指導」については、「3. 学習指導」を参照。</li> <li>・「3. 児童指導の充実」については、「5. 生徒指導」を参照。</li> <li>・「4. 人材育成と教師力の向上」については、「9. 研修（資質向上の取組）」を参照。</li> <li>・「5. 募集力の向上」については、「11. 入試・広報活動（情報提供）」を参照。</li> <li>・「6. 進路進学指導」については、「4. キャリア教育（進路指導）」を参照。</li> <li>・「7. 学校防犯・防災」については、「7. 安全管理」を参照。</li> <li>・「8. 学校安全・健康衛生」については、「7. 安全管理」「6. 保健管理」を参照。</li> <li>・「ていねいできめ細かな授業の日常的な実施」をキーワードに、信頼と思いやりの学校づくりや学力向上を目指した。</li> <li>・募集力の向上に関しては、一定の回復が見込まれた。</li> <li>・学習指導に関しては、日常的な授業改善が行われるようになってきた。</li> <li>・「研究研修推進委員会」を中心にアクティブ・ラーニング等の取り組みが推進できた。</li> <li>・アフタースクールを含め、放課後の学力向上プログラムが充実してきた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼と思いやりの学校づくりと学力向上の実現を通して、更なる募集力の向上を図る。</li> <li>・「ていねいできめ細かな授業の日常的な実施」の徹底を図り、信頼される初等部教育の実現に努める。</li> <li>・アクティブ・ラーニング等を積極的に取り入れ、新教育課程に向けた取り組みを推進する。</li> <li>・初等部経営に関する評価の充実を図り、年度途中においても必要な改善に取り組む。</li> </ul>

## 2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の編成が適正かどうかを精査する。</li> <li>教育課程編成の基本方針を、教職員に周知する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>「三部会特別委員会」の一つに「教育課程運営委員会」を設け、教育課程の編成と運営・改善に取り組んだ。</li> <li>新学習指導要領移行期にあたるため、移行内容が確実に履修されるよう、一覧表を配付した。また、随時実施されているかどうか確認を行った。</li> <li>「教育課程運営委員会」を通じて、教育課程編成の基本方針を教職員全員に周知した。</li> <li>特別の教科「道徳」の確実な実施を周知徹底した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>来たる新学習指導要領大改訂に向けて、初等部としての方針を策定していく。</li> <li>評価方法が変更されることについて、情報を収集し、方針を策定していく。</li> <li>特別の教科「道徳」の確実な実施を今後も継続させていく。</li> </ul>

2-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の実施に必要な、各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画（紙ベース）と実際に行っている授業（実績）が、教科の目標等、どれだけの整合性がとれているのかどうかを精査する。</li> <li>・週案を作成することにより、各自及び各学年で授業時数の管理を計画的に行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週案は、ほぼ全員の教職員が毎週の授業実施に向けて作成・振り返りを行い、授業時数の管理とともに進めてきた。</li> <li>・年間指導計画は、前年度までに加筆修正してきたものを、全教職員に配付し、周知した。</li> <li>・年間指導計画未作成及び加筆修正が未完了の学年・教科が一部残っている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週案は、立案時点で平行学級の時数がほぼ等しいため、簡略化する。</li> <li>・新学習指導要領実施に向け、年間指導計画未作成及び未加筆修正の学年・教科は、学年主任及び教科主任の責任のもとに確実に作成する。</li> <li>・行事等の精選を行い、授業時数の確保と指導内容の精査を進め、改善していく。</li> </ul>

2-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学則に基づく授業時数が、各学年で計画的に実施できているかどうか確認し、大幅なズレが生じている場合は、それを解消する手立てを講じる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30(2018)年度における年間総授業時数は、どの学年においても、文部科学省の学校教育法施行規則第五十一条別表第一で定めている時間数を超えて実施できた。</li> <li>教科等ごとには、学則で定めた授業時間数と実施時間数に多少の差が見られた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な時間割の変更や授業の実施方法に柔軟性を持たせる必要があり、改善を行っていく。</li> <li>学年主任を中心とした学習予定表の作成を通して、バランスの良い学習計画の遂行に努めつつ、教務担当による定期的(月1回程度)な確認作業を実施していく。</li> </ul>

2-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成が適正かどうか、精査する。</li> <li>・「年間指導計画」（紙ベース）と実際に行っている授業（実績）が、教科の目標等、どれだけの整合性が取れているのかどうかを精査する。</li> <li>・「単元別指導計画」の加筆修正を行い、授業内容を平準化する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領及び初等部学則に示された授業時数をもとに、「年間指導計画」及び「単元別指導計画」を策定し、教育課程の編成と教育活動を実施した。</li> <li>・教科ごとの「年間指導計画」及び「単元別指導計画」には、目標が設定されており、それに基づいて学習活動を実施した。</li> <li>・「年間指導計画」及び「単元別指導計画」が、実際に行われている授業とどれだけ整合性が取れているか、加筆修正を行った。</li> <li>・前年度に引き続き、指導と評価の一体化とともに、妥当性と信頼性のある「あゆみ」の作成に向けての研修を行った。</li> <li>・評価規準・評価基準に基づきながら、指導と評価の具現化に取り組んだ。「特別の教科 道徳」においては、教科担当が年間指導計画を作成し、それをもとに、学年で指導と評価の一体化に努めた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に基づいた「あゆみ」「指導要録」の作成をしていく。</li> <li>・引き続き、指導者によって扱いが変わらないような「単元別指導計画」を作成するとともに、観点別評価の基準をできるだけ数値化し、どの教員が指導しても、指導と評価の一体化が図れるようにしていく。また、低学年から高学年の系統性が見えるような評価基準の見直しをしていく。</li> <li>・「特別の教科 道徳」や「総合的な学習の時間」の教育課程の見直しを図るとともに、「外国語活動」の教育課程の作成していく。</li> </ul>

## 3. 学習指導

3-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領や設置者が定める基準（学則）にのっとり、学校全体として、児童の発達段階や学力、能力に即した指導が行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発達段階や学力、能力に即した指導を実施する。</li> <li>・初等部の目指す児童観に沿った指導を実施する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等部の学則は、文部科学省が定める小学校学習指導要領の標準時数を設定している。</li> <li>・各教科、領域の「年間指導計画」「単元別指導計画」をもとに、学習指導を実施した。</li> <li>・4月に実施した「全国学力・学習状況調査」（6年生対象、文部科学省）や、3月に実施した「標準学力検査NRT」（1～5年生対象、図書文化）の結果を、児童や保護者にフィードバックし指導に活用した。</li> <li>・各教科、領域の「年間指導計画」「単元別指導計画」については、新学習指導要領の施行を目前に控え、移行内容を確実に履修することができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改訂学習指導要領の情報を集め、平成32（2020）年度を目途に新しいカリキュラム編成に向けた体制と工程づくりを検討していく。</li> <li>・特別の教科「道徳」については、平成31（2019）年度の実績内容をもとにして、次年度以降に生かしていく。</li> </ul>



3-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に改善されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「確かな学力」と「健やかなからだ」を育むため、各種検定を児童自らが目標を持ち、日頃の学習の成果を発揮するための機会とする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「確かな学力」を育むため、英語検定（英検Jr.）、漢字検定、書き方検定、数学検定、パソコン検定を実施した。</li> <li>・英語検定は、10月・1月に年2回実施し、3年生以上の希望者が4級・5級を受検した。英検Jr.は、11月・2月に年2回実施し、全学年対象に希望者が、BRONZE、SILVER、GOLDの階級を受検した。</li> <li>・漢字検定は、6月・1月に年2回実施し、全学年対象に希望者が受検した。</li> <li>・書き方検定は、日本書写技能検定による硬筆書写技能検定の1月実施を試みたが、希望者数が催行最低数に達しなかったため、実施を断念した。</li> <li>・数学検定は、7月・10月・2月に年3回実施し、全学年対象に希望者が受検した。</li> <li>・パソコン検定は、2月のパソコンの授業内で実施し、4年生以上全員が受検した。4年生はブロンズ、5年生はシルバー、6年生はゴールドの課題に取り組み、A・B・Cの評価を受けた。</li> <li>・「健やかなからだ」を育むため、なわとび検定、泳力検定を実施した。</li> <li>・なわとび検定は、2月・3月になわとび検定週間を設け、体育の授業内や休み時間に検定を実施し、全学年対象に20段階に分かれた検定に取り組んだ。また、児童が様々な技に挑戦しやすいように検定方法の見直しを行った。</li> <li>・泳力検定は、9月の水泳の授業内で実施し、全学年対象に23段階に分かれた検定に取り組んだ。また、児童がバランスよく（長く泳ぐ・速く泳ぐ）泳力を身に着けられるように検定方法の見直しを行った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等部独自で行っている検定に関しては、検定内容を精査していくとともに、授業内や休み時間などを利用し、児童が目標をもって練習に取り組める場を確保していくようにする。</li> <li>・次年度より、外部の検定（数学検定・漢字検定・英語検定）に関しては、実施回数のバランスを考慮し、数学検定は年3回の実施から2回（6月、2月）に変更する。</li> <li>・希望者を募る検定に関しては、校内掲示などを利用して周知を図り、受検者を確保していく。</li> <li>・教員の休日出勤の回数を減らすため、検定の回数や平日に実施が可能な場合は平日に実施する。</li> </ul>

3-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究授業、研修を通して教員の指導力の向上を目指す。</li> <li>・授業の最初の5分と終わりの5分を大切にす。</li> <li>・「5時間目の1年生」を合言葉に全児童が集中して学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>・どの教科においても、児童が高い意識を持って学習できるように、授業を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が参加する研究授業を、年間3回実施した。</li> <li>・個人研修授業を4名の教員が行った。</li> <li>・これまでの校内研究の成果を踏まえて、研究授業においては、教員対児童型の授業スタイルから抜け出すことができ、アクティブ・ラーニングを意識した授業を行うことができる教員が増えてきた。</li> <li>・教室の机の並びを学習活動に応じて変えるなど、教員が学習内容に適した指導方法を考えることができるようになってきた。</li> <li>・児童が一人で考える時間、小集団で考える時間、全体で共有する時間を1時間の授業のなかでうまく割り当て、授業を行う姿が多く見られるようになってきた。</li> <li>・児童が司会を行い、学習をしていくスタイルの授業もみられた。学習のめあてを確認して、児童が発問し、板書も分担して学習を進めていく。その際に教員が学習のめあてから大きくそれることがないように声かけをしていく。お互いの意見を否定することなく、受け入れる学習者同士の関係が大前提となる。普段の学級経営のなかで、互いに認め合い、高め合おうという意識を子どもたち同士のなかに持たせようとする姿が多く見られるようになってきた。これは建学の精神にもつながっていくものであると考えられる。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究授業、研修を通して授業力の向上を目指しているが、校内の他教員が実際に授業を参観する時間を十分にとることができない。そのため、普段の授業のなかで、それぞれの教員が発問、板書、指名などを意識して授業を行っているが、それを評価・指導する方法を検討していく。</li> </ul>

3-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書画カメラや電子黒板、iPad、パソコンを活用し、主体的な探究活動や、学習者同士の伝え合いと学び合いの授業を促進するとともに、学力の定着と向上につなげていく。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンの授業では、情報教育実習室においてコンピュータの使用法を学び、初等部独自にパソコン検定を行って技能の定着を図った。</li> <li>・授業中に書画カメラや電子黒板を活用した教育活動を行った。理科や社会科、道徳はNHK for school等の動画資料を用いた学習や、教科書・ワークシート等を投影しながら発表や解説を行った。</li> <li>・iPadについては、体育や国語の授業で動画を撮影し、音読や跳び箱等の出来栄を記録・確認して技能の向上を図ること、算数の授業の計算練習に算数アプリケーションを用いて児童の興味・関心を引くこと等に活用した。</li> <li>・初等部図書室にはタブレット型パソコンを配備し、読書の授業にて蔵書検索や調べ学習等に活用した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も更に電子黒板やタブレット型パソコンの活用を進めていく。また、活用方法を増やしていく。</li> <li>・新たに導入すべきアプリケーションについて、教員から意見を集め、担当で導入を検討する。</li> <li>・パソコン検定については、新たに導入されたコンピュータのアプリケーションや、社会の変化に合わせ、必要に応じた内容の再検討を行っていく。</li> </ul>

3-⑤	・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に1回司書教諭による「読書」の授業を行い、図書館の計画的・積極的利用及び読書活動の推進に努める。</li> <li>・調べ学習に必要な環境を整備し、情報発信センターとしての役割を果たし、図書館を有効的に活用する。</li> <li>・「図書委員会」の児童による働きかけで、休み時間の図書館利用率を上げる。</li> <li>・放課後図書館開放を積極的に行い、豊かな心の教育の促進に努める。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読書」の年間カリキュラムに基づき、図書館を利用して発達段階に応じた内容で授業を行い、読書活動の推進に努めることができた。</li> <li>・OPAC検索についてのガイダンス学習は「読書」の授業で行い、グループや個人とスタイルを変えながら積極的に調べ学習を推進し、他の教科学習においても活用していた。</li> <li>・「図書委員会」の児童による様々な企画で、図書館や本に関する関心を高め、初等部の児童の休み時間の図書館利用率が上がった。</li> <li>・放課後図書館開放「木もれびの部屋」活動もだいが軌道に乗り、特に低学年を中心に利用率が上がり定着し始めた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き良書選びに努め、図書館の充実化を進める。</li> <li>・図書館間の連携を図り、学校図書館に留まらず多種多様な図書館について知る機会を作り、更なる図書館の計画的・積極的利用及び読書活動の推進に努める。</li> <li>・他教科との連携を図り、図書館の活用をより進めていく。</li> <li>・放課後図書館開放「木もれびの部屋」活動の定着とともに、適宜活動内容に策を講じ、更に図書館の有効活用を図る。</li> </ul>

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習や問題解決的な学習、児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかよしグループ活動を通して、上級生としての自覚をもつ。また、児童の自発的な関わりを増やす。</li> <li>・建学の精神を意識して、奉仕活動を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかよしグループ活動では、ペア学年との遠足、6年生への色紙作りを行った。</li> <li>・なかよしグループ活動において、下級生も自分の役割を果たそうと努め、交流を深めることができた。また、普段関わることの少ない上級生と下級生との交流の場として機能し、活動後にも同じグループの児童と交流することができた。</li> <li>・フリースタイルでは、学期末に清掃（大掃除）を行った。建学の精神にあるように、「感謝と奉仕の心」を持って、ぞうきんを使って、心を込めて取り組むことができた。その成果の一つとして、毎日の清掃活動等で自主的に奉仕の心を持って取り組む児童も見られた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかよしグループで共通の活動・課題に取り組む機会を増やしていく。</li> <li>・フリースタイルでは清掃活動が中心だったので、清掃活動にとらわれない新たな自主・自発的な活動を考え、取り組んでいく。</li> </ul>

3-⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、体験活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神の実現を理想に、児童の自主的な創意工夫も取り入れながらバランスのとれた学習内容が図られた教育活動として学校行事を実施する。</li> <li>・学校行事を通して、初等部の教育理念を根幹とした「知・徳・体」の能力を総合的に育成するための内容となるように取り組む。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式・卒業式は、ともに厳粛な式典であるとともに、初等部生として迎え、そして初等部から送るための儀式的行事であり、学校全体で温かな気持ちをもって取り組み、実施することができた。</li> <li>・みどり祭や、従来の学芸会・音楽会を統合した学習発表会では、日頃の学習の積み重ねの表現を中心とする主要な文化的行事であり、児童の自主性・自発性を取り入れた表現力の育成と、鑑賞能力の向上とが一体となり、人と人との切磋琢磨で美的感性を豊かに涵養する体験を実現できた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・春の遠足では、1・6年生、2・4年生、3・5年生といった異学年の組み合わせで各目的地へ行き、現地で自然や文化とふれ合うなかで、お互いの交流を深めることができた。また、9月には1・2年生が秋の遠足を行った。</li> </ul> </li> <li>・運動会では、赤白の組に分かれ、学年ごとが日頃の体育授業で培った力を競技や演技で表現できた。また、応援団の結成から練習、当日の活動をも含め、児童は精一杯の努力を発揮することができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩瀬キャンパスのみどり祭は中・高等部と別時期での開催となり、内容の変化に影響もあったが、幼稚部との同時開催は達成された。これに伴い、5年生と幼稚部生との交流や、6年生児童のボランティア活動を活性化させることができた。今後は更に内容の検討を重ねて、児童が更に関わることのできるものを目指していく。</li> <li>・校外宿泊体験学習における実施時期は徐々に改善され、猛暑の夏季を避け、冷涼な気候的時期と環境のもとで活動を行うことができた。今後は対象地域の特性を生かした体験学習を検討する。</li> </ul>

3-⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表委員を中心に、児童がより良い人間関係を築き、集団の一員として協力して諸問題を解決しようとする態度を育てる。</li> <li>・年間を通しての委員会活動の計画をたて、低・中・高学年でそれぞれの委員会の活動を十分に伝えられるようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間 6 回の運営委員会を実施した。運営委員会は代表委員、各委員会の委員長が参加し、それぞれの委員会での活動報告を行い、より良い学校づくりのためにどのようなことを行っていけば良いかについて話し合った。各月の活動内容については、校舎内に掲示板を設け、活動報告することで、今後の活動に見通しをもつことができるようになってきた。</li> <li>・代表委員、学級委員を中心に挨拶運動を進めた。本年度は朝の校門での挨拶運動、マスコットキャラクターの作成、挨拶動画の作成を行った。</li> <li>・ボランティア委員ではエコキャップの回収活動に加えて、ちょボラ（ちょっとしたボランティア）活動を継続して行った。「ボランティア委員を探せ」といった企画も行っており、全校児童に参加を呼びかける姿が見られた。</li> <li>・飼育・園芸委員会では玄関に花を飾るなどの活動を続けた。</li> <li>・放送委員会では、放送内容を子どもたちが考え、特に昼の時間の放送を充実させようとしている姿が見られた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員や保健委員等の当番的な活動がある委員会は、継続して委員会活動を行うことができているのに対し、定期的な活動がない委員会では、児童の委員会活動に対する気持ちが消極的になりがちである。また、活動を進めていくうちに、どうしてもなかだるみのような時期がでてきてしまう。その際は、担当教員が委員会の児童に対して積極的な活動を促す指導を行っていく。</li> <li>・児童会活動担当者が児童会活動の全体像を把握仕切れていないところが見られた。行事の削減も相まって、学校全体で行う児童会活動が少なくなっている。大きな行事として行うものではなく、常時活動として委員会活動を行っていけるように、各委員会担当者が指導を行っていく。</li> <li>・運営委員会を続けて行ってきたことで、それぞれの委員会活動は充実してきている。縦のつながりをこれまで以上に感じられるよう、委員会活動を行う児童の活躍を低学年にしっかりと伝えていく。そのために、委員会担当者を高学年担当だけに任せない等、低学年にも伝わる工夫をしていく。</li> </ul>

3-⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制の下に積極的に実施されているか。</li> <li>・部活動が、教職員全体の協力体制の下で実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してより良いクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てるために、クラブ活動を積極的に実施する。</li> <li>・クラブ活動が適切に運営できるよう全教職員で取り組む。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課内クラブでは、4年生から6年生の児童が全員参加できるよう全教職員が10のクラブの担当に分かれて指導にあたり、適切に運営することができた。</li> <li>・課外クラブでは、1年生から6年生の児童から希望者を募り、全教職員が7つのクラブに分かれて担当し、朝、放課後の練習や、大会等で、適切に運営することができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も引き続き適切な管理体制のもと、積極的な実施ができるように子どもたちの興味関心や教員の指導技術等を考慮しながら実施できるよう計画していく。</li> <li>・全教職員で指導にあたり、児童の安全管理を行えるように、クラブ内容やクラブ数においてもアンケートを実施し検討を重ねていく。</li> <li>・活動内容に応じて適切な指導体制が取れるように、各クラブの参加人数に合わせた教員の人員配置を検討していく。</li> <li>・野外の活動では、天候などを考慮した上で、できる限り活動が充実できるよう指導に取り組む。</li> </ul>



3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導や習熟度に応じた指導、補足的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導や習熟度に応じた指導を行い、基礎基本の定着を図るとともに、補足的な学習や発展的な学習を通して、思考力・表現力・判断力の育成を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダブル担任や理科、算数、家庭科、音楽、図工、英語の専科の教員を生かした複数の教員による指導で、個別の対応を行った。</li> <li>・児童同士の関わりのなかにおいても、グループでの学び合いを取り入れることで、分かる子、分からない子のどちらも伸びる、個に応じた指導ができた。</li> <li>・理科の実験や野外での観察においては、複数の教員で指導にあたることで安全を確保するとともに、技能に関する個別指導の充実を図ることができた。</li> <li>・主に低学年において、児童の希望に対応し、休み時間や放課後に学習支援を行った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度に応じた学習指導やグループでの教え合いや学び合いを中心とした学習指導をよりいっそう広げていく。特に2名の教員によるティーム・ティーチングを行っている算数や理科、英語等の授業においては、よりいっそう細やかな指導を行い、個に応じた指導を進めていく。</li> <li>・トピック単元やオリジナル教材などを積極的に活用し、思考力・表現力・判断力を伸ばしていく。</li> <li>・学力差は今後も課題となっていくと考えられる。習熟度別の学習形態を必要に応じて取り入れることも1つの手段である。実態に応じて様々な指導の仕方を利用してくよう努める。</li> </ul>

3-⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム・ティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等部教育目標に従い、児童の「安心した学び」「楽しい学び」「確かな学び」の充実を図る。</li> <li>・チーム・ティーチングの指導において、教員の役割分担を明確にし、一人ひとりの児童に適切な指導・支援を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年では、ダブル担任制を生かし、すべての教科において2名の教員による指導を行った。T1とT2が連携し、児童へ指導や支援などを充実させ、丁寧で細やかな指導を行った。</li> <li>・第2～第6学年では、算数・理科・家庭などで二人の教員が指導を行った。専門的な知識や技能を持つ専科の教員が授業を進め、もう一人の教員が児童の支援についた。サポートの教員により、より細やかに児童の実態を見取り、支援を行うことで、学力の向上や安全指導の充実を行った。また、学校生活における様々な児童指導の場面において、様々な教員が協力して複数で指導体制とり、指導にあたった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム・ティーチングは円滑に進んでいると感じている。今後さらに充実させるには、担当者間の打ち合わせを密にし、評価の観点や安全面への配慮などを共有して指導にあたる必要があると考える。</li> <li>・理科の実験や家庭の調理実習など、複数の教員で授業を進めることで、円滑に授業を進めることができた。専科の教員が主体となって授業を進めていく中で、サポートの教員がどのように児童にかかわり、どのような観点で支援や評価をしていくのか、今後も取り組むべき課題である。教員が同じ視点を持ち、同じ方向性で支援や指導を行うことで、教育活動をより充実させていく。</li> </ul>

3-⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。</li> <li>・幼小連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。</li> <li>・小中連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。</li> <li>・高等部との連携に関する取組がなされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚部、初等部、中・高等部の3部の情報共有を深める。</li> <li>○併設幼稚部との連携と協働を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と園児の交流活動を促進する。</li> <li>・初等部と幼稚部の教職員交流会を年間2回程度開催する。</li> <li>・初等部だよりやポスターを用いて、初等部情報を幼稚部保護者に届けていく。</li> </ul> </li> <li>○併設中・高等部との連携と協働を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部内部進学について、中等部長や入試担当者から説明を受け、共通理解を図る。</li> <li>・内部進学説明会の回数や実施方法を工夫する。</li> <li>・初等部の進路指導主任と中等部の入試広報主任等と定期的に連絡を取り合い、特に内部進学について遺漏のないようにする。</li> <li>・中等部への内部進学を促進する。</li> </ul> </li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回、幼稚部生と1年生とで交流を行った。その結果、1年生の年長者としての自覚が芽生え、年下に優しく接する意識が高まった。</li> <li>・初等部と幼稚部との教職員合同研修会を行った。その結果、幼稚部・初等部相互の取り組みへの理解が深まった。</li> <li>・幼稚部との連携のもと、児童と園児及び教員間においても交流促進を図り、幼稚部と初等部の一貫教育の実現と内部進学の促進に取り組んだ。</li> <li>・中等部との連携のもと、内部進学説明会の持ち方を検討するとともに、算数を中心とした講習活動の推進を図り、中等部への内部進学者数の増加に取り組んだ。</li> <li>・内部進学説明会を4月・9月・2月に計3回実施し、低学年時から中等部の教育への関心を持ってもらえるようにした。</li> <li>・中・高等部のみどり祭と初等部の授業参観の日程を合わせることで、より多くの保護者と児童が中・高等部のみどり祭へ参加できるよう工夫した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部カリキュラムをより理解し、初等部での教育活動により生かしていく。</li> <li>・初等部女子児童対象の中等部の内部進学説明会の時期を早める。</li> <li>・女子児童数に対する内部進学者の割合を上げるため、中等部との連携を図り、改善への取り組みを検討する。</li> <li>・初等部と中等部との交流の機会を作り、互いの理解を深めていく。</li> </ul>

3-⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等部が取り組んでいる研究・研修などに、大学の教員から専門的な指導を受けるようにする。</li> <li>・授業研究会の講師として大学の教員を招聘する。</li> <li>・3名の大学生の教育実習を実施する。</li> <li>・大学生、大学院生の初等部への訪問、授業参観を通して、交流の促進を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究・研修について、大学の教員から専門的な話を聞くことができた。</li> <li>・各学年に教育実習生を配属させ、教育実習を滞りなく行った。</li> <li>・初等部5年生児童が、「鎌倉メダカ」の話を大学の教員から聞くことができた。</li> <li>・大学4年生が初等部の授業を参観し、その後、授業者からの講話を聞く「教職実践演習」を行った。</li> <li>・初等部6年生児童が、大学の教員より3時間のプログラミングの授業を受けた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業力向上」は、初等部教員にとって必要不可欠である。自己研鑽を積んでいくとともに、継続して大学の教員より専門的指導を受けていく。</li> <li>・プログラミングについては、開設して3年目に入る「モノ・コト」クラブに大学生が参加し、初等部生と交流を図る機会を設け、内容を充実させていく。</li> <li>・大学生の教育ボランティアの募集は、早めに徹底して行う。</li> </ul>

## 4. キャリア教育（進路指導）

4-①	・学校の教職員全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の周りの仕事や環境への関心・意欲を高める。</li> <li>・夢や希望、憧れを持ち、より良い自己形成を図ろうとする。</li> <li>・勤労を重んじ、目標に向かって努力することができる。</li> <li>・自らの進路進学に関心を持たせる。</li> <li>・人間関係形成能力や自己理解力、自己決定力、課題対応力の育成をする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な体験（工場見学等）を通して、自ら課題を見つけ、解決していく学び方を身につけ、新たな自分の生き方を見出すことができた。</li> <li>・すべての教科において、働く人々とふれあう機会を大切にすることができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の学校生活や教科等の授業、体験活動、行事を経験するなかで、児童それぞれが学んだり考えたりすることはできたが、それらを自らの進路進学への関心にうまく結び付けることができなかった。今後も、児童の興味・関心を大切にしながら、自分ならどのようにしたいなど、目的意識をもって体験をし、自分を振り返る活動を行っていく。</li> </ul>

4-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。</li> <li>・職場体験や就業体験が適切に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発達段階を考慮して、学年に応じて教科等との連携を取りながら、キャリア教育の推進を図る。</li> <li>・キャリア教育に関する体験的な学習の充実を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科等の学習と連携し、社会的・職業的な観点の学習に取り組むことができた。</li> <li>・町たんけん、水再生センター見学、鎌倉ハム工場見学、イトーヨーカドー店舗見学、日産自動車工場見学、林業・酪農体験学習等、様々な施設や人と関わりながら、体験学習を進めることができた。</li> <li>・宇宙飛行士の講演会では、目標達成までのプロセスや宇宙についての話を聞き、夢の実現についての希望をもつことができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、児童の社会的・職業的な自立ができる広い視野を育む学習になるよう質的向上に取り組む。</li> <li>・勤労観・職業観の育成につながる体験的な学習の取り組み、事例等の情報収集を継続する。</li> <li>・児童が自分の将来像を考える機会や職業観を広げる機会として授業を行うとともに、様々な教科のつながりを意識し、体系的・系統的な指導にあたる。</li> </ul>

4-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の能力・適正等の理解のために必要な個人的資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の能力・適正を把握するために校内で実施した模試などの資料の活用を図る。</li> <li>・中学受験の希望校や進学先等の情報を整理し、次年度の進路指導などに活用する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年に応じた模試を行い、児童の能力・適正を把握し、個人面談等において一人ひとりに応じた学習や進路指導に活用することができた。</li> <li>・児童が受験した学校や試験結果、進学先などの情報を収集・整理したり、卒業生の様子などを聞いたりすることで、児童に合わせた進学指導に生かすことができた。</li> <li>・外部受験については男女ともに好調で、栄光学園中学校が1名、開成中学校が1名、浅野中学校4名、聖光学院中学校2名、横浜共立学園中学校1名、慶應義塾湘南藤沢中等部1名のほか多数の中学校への合格者を出した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進度と模試の内容等を合わせ、更に充実した進路指導につながるよう配慮する。</li> <li>・児童が受験した各中学校の試験や面接内容などの情報についても必要に応じて収集、活用を検討する。</li> </ul>

4-④	・進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。
取組目標	・個々の児童のニーズを把握し、支援の内容や方法について、本人や保護者と共通理解を図る。
取組内容 と成果	・主に受験における進路相談を行った。 ・児童一人ひとりに対して、その児童に合った進学校についての助言を行った。
今後の課題 と改善策	・進路相談が進学校の助言にとどまっているため、今後も引き続き、先を見通した将来の職業等を踏まえた上での進路相談ができるように計画的に準備をしていく。



4-⑤	・キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路進学相談室を中学受験や将来の職業（夢）について考えることができる場として活用する。</li> <li>・児童が進路進学相談室を積極的に活用できるよう、場の工夫をする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導主任を中心に、進路進学相談室を習熟度別学習の際に利用したり、個別重点指導室や補習室等にしたりするなど、その有効活用の検討を図り、児童一人ひとりへの進路指導の充実に取り組んだ。</li> <li>・進路相談や自学自習のできるブース、中学受験案内、過去問題、様々な職業の紹介本を置き、児童が使用しやすいよう配置を工夫した。</li> <li>・6年生を中心に受験勉強や個々の進路相談で多くの利用があった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路相談としての機能を更に充実させていく。</li> <li>・高学年を中心に進路相談、キャリア教育の時間を確保し、積極的に活用していく。</li> </ul>

## 5. 生徒指導

5-①	・学校の教職員全体で児童の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「品位ある児童」の育成を目指し、共通理解をもとに組織的に一貫性をもって指導・対応を行う。</li> <li>・児童指導と保健指導、安全指導の充実を図り、児童のだれもが「安全で安心」して学べる教育環境づくりを行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「職員会議」や全体会を通し、児童指導の共通理解を図った。</li> <li>・年間8回の「児童健全育成委員会」を行った。その結果、教職員間で共通理解を持ち児童指導を行えた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もより共通理解を深め、組織としての対応の具体策を検討していく。</li> </ul>

5-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか。</li> <li>・スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーとの連絡を定期的に行い、児童の健全な発育をサポートする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員とスクールカウンセラーで児童の実態を定期的に共有化することができた。その結果、多くの目で該当児童を見る意識が高まり、より児童理解に努めるようになってきた。</li> <li>・児童指導における相談機能と連携機能の強化に継続して取り組んだ。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、スクールカウンセラーと連絡を定期的にとり、部長、次長、児童健全育成委員会、学年主任、担任を含む教員が必要に応じて集まり、情報交換する場を設ける。</li> <li>・学年又は全教員が、児童のより良い成長のために連携していく。</li> </ul>

5-③	・児童の問題行動の状況を共有し、適切に対処できているか。
取組目標	・児童の問題行動の状況を共有し、適切な対処を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「職員会議」や年間8回の「児童健全育成委員会」において、各クラスの状況を確認、共有した。その結果、問題の程度に応じて対処を行うことができた。</li> <li>・問題行動の防止と児童指導の充実に取り組み、児童一人ひとりに対して細かな児童指導ができた。</li> <li>・児童の問題行動等について保護者と連絡を取り合ったり、要望も含め面談を行ったりと連携を取り問題の解決に努めることができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より組織的で適切な対処を進めていく必要がある。</li> <li>・問題行動が増加傾向にあり、内容にも変化が見られてきているため、外部機関等とも連携を深め、対処していく必要がある。</li> </ul>

5-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる児童を育成するための指導を行っているか。</li> <li>・相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童を育成するための指導を行っているか。</li> <li>・社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身に付けた児童を育成するための指導を行っているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や月訓、ルール・マナー指導を通して、自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる児童の育成を行う。</li> <li>・社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身に付けた児童の育成を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に合わせて、行事へ向けた話し合い活動を行ったり、クラスで社会活動を行ったりと、児童の自主・自発的で創造的な活動を生み出し、児童の自律的な自己指導能力の育成に取り組んだ。</li> <li>・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる児童を育成するため、行事の大きな目標だけでなく、練習ごとに細かく目標を立てさせた。また、月初めに学年・学級を中心に毎月の月訓等について考えさせ、学級・個人で目標設定をし、振り返りを行った。</li> <li>・児童が社会の一員としての意識を身に付けることができるよう、教職員全員による当番制での登下校時の指導を行った。大船駅（構内・階段・エスカレーター）、バスターミナル、学校前バス停、校門などで、全教職員が適切な指導を行った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共心育成のため、登下校時における電車やバスの乗車マナー改善に努めていく。</li> <li>・児童が自主的に活動できる場（委員会活動）を充実させていく。</li> <li>・発達段階に応じた話し合いのスキルを身に着くよう指導していく。</li> </ul>

## 6. 保健管理

6-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。</li> <li>・児童の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談が適切に実施されているか。</li> <li>・日常の健康観察や、疾病予防、児童の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<p>【初等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校保健計画」をもとに、月ごとの保健目標を各クラスで確認、実践し、保健行事、保健管理、保健指導、保健学習、組織活動を円滑に進め、改善を図る。</li> </ul> <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校保健計画」を適切に実施する。</li> <li>・保健管理（心身の管理・生活の管理・環境の管理）、保健教育（保健学習・保健指導）を適切に実施する。</li> <li>・日常の健康観察や、疾病予防、児童の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<p>【初等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月保健だよりを発行し、保健情報を伝えている。</li> <li>・保健目標を毎週の予定表に記載し、校舎内にも掲示し、児童が意識できるようにした。</li> <li>・毎日の健康観察を行い、学校生活が健康的に進められる状態かどうか、感染症の初期兆候がないか等の把握を行った。</li> <li>・保健センターや保健室との連携を図り、熱中症や感染症等の予防とともに、けがの発生件数の減少に取り組んだ。</li> <li>・熱中症対策に努めた。熱中症指数モニターにより初等部グラウンドの熱中症指数を測定し、危険度を色で示した。適切に水分を摂取するよう指導を行った。</li> <li>・各玄関や各教室に手指消毒用のアルコールを設置し、衛生管理に努めた。</li> <li>・おう吐物の処理マニュアル・処理用のセットを各階のトイレや特別教室、職員室に設置した。</li> <li>・健康診断の結果から各種受診の勧めの呼び掛けや、学校薬剤師による環境衛生検査を行った。</li> <li>・健康診断事前事後指導、う歯予防指導を学級単位で行った。2年生・3年生・6年生のう歯予防指導は、担任と養護教諭で行った。</li> <li>・「体育」「家庭」等学習の面からの保健的なアプローチを行った。</li> <li>・「児童健全育成委員会」で、ケガや疾病、感染症の流行等について報じ、対策の検討を行った。</li> <li>・「校外学習指導計画」や「宿泊体験学習実施計画」、「水泳指導計画」を作成するとともに、心肺蘇生研修や食アレルギー研修等、研修の充実に取り組み、安全保護義務の徹底を図ることができた。</li> <li>・「健康教育全体計画」を作成し、健やかなからだの育成に取り組んだ。</li> </ul>

	<p><b>【保健センター】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校保健計画」に則り、適切な保健活動を行った。</li> <li>・保健目標に沿った内容の保健だよりを毎月作成し、児童だけでなく家庭にも情報を伝えることができた。</li> <li>・毎朝の健康観察及び欠席調べにより、欠席状況を素早く把握し、欠席者の多い学級に対してマスクの着用や合同授業の中止、学級閉鎖などの感染症の蔓延防止策を講じることができた。</li> <li>・定期健康診断を実施し、所見のあった児童の家庭に対し受診勧告を行った。また、受診報告書に基づいて、必要に応じて配慮を行った。</li> <li>・学校薬剤師による定期環境衛生検査、教室の日常点検、机やいすの調整など環境管理を円滑に行うことができた。</li> <li>・学校生活において特別な配慮を要する児童の保護者と担任、管理職、養護教諭で面談を行い、学校生活における具体的な配慮や緊急時の対応について確認を行った。</li> <li>・アナフィラキシーの既往がある児童の緊急時、全職員が適切に対応にあたるようエビペンについての研修を行った。また、「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を内線電話に設置し、緊急時に活用できるようにした。</li> <li>・担任やカウンセラーと密に連携を取り合うよう努めた。その結果、相談活動を適切に実施することができた。</li> <li>・1年生の希望者を対象に健康相談として色覚検査を実施した。事前に色覚についての保健指導を行い、色覚について理解を深めた。プライバシーに配慮した検査を行うことができた。</li> <li>・1年を通じて、各教室に手指消毒用アルコールを設置し、感染症の予防と蔓延防止に活用している。また、各行事にて、受付にマスクや手指消毒用アルコールを設置した。</li> <li>・感染性胃腸炎が疑われる欠席の増加がみられた学年に対しては、手洗いを徹底するとともに広範囲のウイルスを消毒できるアルコールを使用することとし、感染拡大防止に努めた。</li> <li>・毎月、保健室利用者統計を作成している。学級ごとのケガの状況とその原因をまとめ、担任に伝えることで、指導上の留意につなげることができた。</li> <li>・学級担任、教科担当と連携し、歯みがき指導を含む保健指導及び性教育を含む保健学習を行った。その結果、生涯にわたり健康な生活を送ることの大切さについて理解を深めることができた。</li> </ul>
<p>今後の課題 と改善策</p>	<p><b>【初等部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に即した保健指導を目指していく。</li> <li>・教職員が共通の認識を持って児童指導にあたることのできるよう、内容について理解を深めていく。</li> </ul> <p><b>【保健センター】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自己健康管理能力がより向上するよう、保健教育の充実を図っていく。</li> <li>・一部改正になった学校環境衛生基準に則った環境の管理が行えるよう努める。</li> </ul>

## 7. 安全管理

7-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。</li> <li>・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。</li> <li>・校舎や通学路等の安全点検や教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが、「安全」「安心」に生活できるよう、初等・中等教育支援室や警備室と連携を図り、防犯・防災に努める。</li> <li>・教室、廊下等の日々の安全点検に努める。</li> <li>・登下校の安全対策に努める。</li> <li>・緊急時に対応できるよう訓練を実施する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等・中等教育支援室及び警備室との連携のもと、常に情報の共有化を図り、不審者侵入や緊急対応など、危機管理の徹底に取り組んだ。</li> <li>・日直当番による日々の施錠と安全点検の徹底に取り組んだ。</li> <li>・岩瀬キャンパス及び初等部内の防災訓練と避難訓練を計画に沿って実施し、防災への備えと安全への意識啓発を図った。</li> <li>・防災備蓄庫の非常食・飲料水の保管管理に取り組んだ。</li> <li>・避難訓練の際に、非常食・飲料水の試食訓練を行った。</li> <li>・月ごとの校舎や教室環境についての安全点検票を作成し、キャンパス整備部門との連携のもとに、日々安全管理に努めることができた。</li> <li>・地区別集会の際に、登下校時に気を付けるべき事柄について、指導を行うことができた。</li> <li>・グラウンドで危険が予知できる場所に児童が入らないように、指導を行った。また、注意喚起の掲示物を設置した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練のバリエーションを増やし、より実践に近い訓練を行うことで、児童と教員の危機意識の向上を図る。</li> <li>・防災備品の見直しを年に一回行う。</li> <li>・幼稚部、中・高等部、初等・中等教育支援室とより密に連携を図っていく。</li> <li>・登下校途中における防犯と防災についてもカリキュラムに位置付け、計画的に指導していく。</li> <li>・雨天時の避難訓練の改善に努める。</li> </ul>



7-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防火・防災計画を整備し、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。</li> <li>・地区別集会や引取訓練等を通じて、各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等部独自の避難訓練を2回、岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、防災訓練内で消火器取扱い訓練と屋内消火栓取扱い訓練を各1回行った。また教職員対象の救命救急講座を1回行った。</li> <li>・保護者対象の行事として地区別集会と引取訓練を同日に1回実施し、防災に関する心構えや基本行動の周知が行われた。</li> <li>・防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、児童の災害時の食事に対する意識を高めた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面を想定し、併設校各部や総務部、管轄消防署と相談を行いながら、児童や保護者を含めて有事に対応できるような訓練を今後も継続したい。なお岩瀬キャンパス全体の防災訓練を、これまで 2 回とも消防署立会いのもとで行ってきたが、消防署からの勧めがあり、次年度からは 2 回のうち 1 回を消防署の立会いのない自主訓練の形式で行う予定である。</li> <li>・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、幼稚部や中・高等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。</li> </ul>

## 8. 組織運営

8-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神のもと、年度初めには部長（校長）より「初等部事業計画」が提示され、講話をし、教職員の理解を求める。</li> <li>・「教育活動目標報告書」の作成にあたり、年間1・2回程度（5月・1月）の面談を行う。</li> <li>・毎週出される「週案」の職務記述を通して、教職員一人ひとりのキャリアステージの向上に努める。</li> <li>・日頃の授業や研究・研修授業を参観し、授業力向上に向けてアドバイスをする。</li> <li>・教職員の健康管理に配慮する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部長（校長）等管理職は次のことを実行した。</li> <li>・放課後講習担当を同学年同曜日にし、学年会の定例化を指示し徹底した。</li> <li>・道徳の教科化にあたり評価の作成や単元計画、平成32（2020）年の学習指導要領の改訂に伴い行事の見直しなどのプロジェクト（学習発表会等）を、夏季休業日期间を中心に行った。</li> <li>・教室やグラウンド、畑など校内の見回りをして、安全指導ができていないかの確認を行った。</li> <li>・常に授業参観をして、クラスの児童の様子や整理整頓がなされているかを確認した。</li> <li>・勤務時間や休日出勤が適正に行われているか、教員一人ひとりの立場で確認した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部長（校長）等管理職は常に、報告と連絡と相談の体制を作り、児童対応や保護者対応が適正に行われているか、教員より十分聞いていく。</li> <li>・教職員の勤務時間が長くなりがちであるため、退勤時刻を原則19時、特に水曜日は全員の退勤時刻19時を推進する。</li> <li>・働き方改革に伴い、引き続き業務の見直しを行っていく。</li> </ul>

8-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもを通わせたいと思える魅力ある初等部経営の実現」などという目標を掲げ、教育活動の充実に取り組む。</li> <li>・部長と部長代理、次長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、入試広報主任、研究研修主任、庶務主任、学年主任から成る「拡大運営推進委員会」の円滑な運営と経営に取り組む。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、「あゆみ」「指導要録」形式変更プロジェクト、学習発表会プロジェクト、図書館プロジェクト、みどり祭プロジェクト、ミャンマー使節団歓迎プロジェクトなどを行い、組織の活性化と教育活動の充実を図ることができた。また、基幹教諭及び中堅教諭としての自覚の形成を図ることができた。</li> <li>・研究研修主任を設置して5年目となり、研究と研修部門を統合し、教科指導力と児童指導力を柱に、教師力向上の取り組みを組織に展開していく。</li> <li>・「教育課程運営委員会」のなかに「評価」担当を位置付け、「指導と評価（評定を含む）の一体化」のもとに、新学習指導要領準拠の教育課程の編成ができるようにした。</li> <li>・「児童健全育成委員会」の「全体会」を年間9回行い、児童指導についての情報の共有化と指導の一体化に努めた。</li> <li>・「研究研修推進委員会」、「教育課程運営委員会」、「児童健全育成委員会」の三つの委員会を三部会とし、定着してきた。必ず教職員はどこかに所属し、同じ時間に会議を行い、共有の話題で時間を持つことができた。</li> <li>・各学年に「学年会計」担当を置き、学年主任と共に、学校行事や学年費などに関わる稟議及び会計執行を迅速且つ適正に努めた。</li> <li>・校務分掌の担当者は、係分担の分散と集中の視点から、担当責任者と主たる担当者とのみの表記にとどめた。責任体制はできている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当責任者に対して、例年同様のみならず、常に新しい活動の創出を心がけ、必要な場合には主たる担当者以外の人的配置も含めて、計画的且つ創造的に校務分掌を推進するよう助言する。</li> <li>・教員が、学校行事、教材など教育活動のなかで関わる経理関係を十分に熟知しておく。また、執行状況の把握を常にしておく。</li> <li>・基幹主任がその組織内にある教育活動と内容を熟知する。また、報告・連絡・相談の体制ができるように助言する。</li> <li>・初等部運営組織を改善し、初等・中等教育統括部長のもと、部長、次長、職員会議、教務主任の順に指揮系統を整え、その配下に生活指導主任、進路指導主任、入試広報主任、研究研修主任、授業改善主任（新規）と委員会を置く。</li> </ul>

8-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「職員会議」の前に、必ず「拡大運営推進委員会」を行う。「職員会議」の議題や早急に検討しなければならない重要事項について話し合う。</li> <li>・定例として毎月1回（月末）、長期的展望のもと、特に翌月の教育活動を視野に入れて、「職員会議」を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<p>「拡大運営推進委員会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例の7回、臨時的な会議3回を含め、計10回開催された。参加メンバーは、部長、部長代理、次長、校務の基幹主任、学年主任で組織運営された。必要に応じて、校務の担当者も出席した。</li> <li>・検討事項は、行事、入試広報、教育課程、児童の様子など、多岐にわたった。これらの検討・決定事項を「職員会議」の議題・伝達事項として、教職員に共通理解を図った。</li> </ul> <p>「職員会議」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回（月末）、16:00から17:00の約1時間の「職員会議」を開催した。</li> <li>・例年と同様、「職員会議」の議案は事前に「拡大運営推進委員会」で検討された後、議案として提出することを原則とした。</li> <li>・初等部教職員の他、初等・中等教育支援室、保健センター、教育相談室からも、担当教職員が出席した。</li> <li>・「職員会議」の案件は、事前に検討されているため精査された議案として提出することができた。案件は報告、連絡という形で行い、教職員に周知徹底させることに重点をおいた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「拡大運営推進委員会」が、校務分掌のなかで主軸となる働きをする必要がある。校務の各主任がおり、各種委員会とも連携していけるよう組織全体の活性化を図る原動力となるように努める。行事の提案を少なくとも2か月前にできるようにする。</li> <li>・初等部全体の教育活動の充実や構想を立てる機関として機能する。</li> <li>・長期的、中期的、短期的懸案事項に分け、精査していく。</li> <li>・「職員会議」資料の配付が、会議直前となることが多いため、資料提出の締め切り日を決め、資料を事前に配付できるようにする。</li> </ul>

8-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「鎌倉女子大学初等部文書管理規程」に基づき、文書を適切に管理する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>初等部が扱う情報・文書は、①児童の個人情報、②教職員の個人情報、③授業等の教育活動に関わる情報、④金銭の出納、等学校運営に関わる情報に分けることができる。「鎌倉女子大学初等部文書管理規程」に基づいて、文書管理を行った。</li> <li>個人情報の電子化が進みつつあるなかで、そのデータが持ち出せないような仕組みの安定運用を実施した。また、教職員の退職時には、個人情報等を一切持ち出していない旨の宣誓書を提出し、最終確認を行った。</li> <li>管理文書の適切な管理（期間どおりに保管、廃棄）を行った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>文書管理規程どおりに実施されているか、確認作業を実施する。</li> <li>電子データと紙データの効果的・効率的な管理方法を検討する。</li> <li>文書廃棄に関わる効果的な方法（裁断・溶解等）を検討する。</li> </ul>

## 9. 研修（資質向上の取組）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間3回の研究授業を通して、授業改善を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究全体会（4月）では、2018年度の研修の進め方を確認し、1年間の日程を確認した。</li> <li>・第1回校内研究授業（10月）では、第5学年国語「古典の世界」の単元のなかの「論語」や漢詩「春暁」を取り上げた。小学校の国語で古典をどのように指導していくか検討した。</li> <li>・第2回校内研究授業（11月）では、第2学年道徳科「三びきは友だち」という単元で、公正・公平について学び合いを行った。1回目の事後検討会で講師から紹介のあった付箋を利用したワークショップ形式の話し合いを取り入れながら授業を進めた。</li> <li>・第3回校内研究授業（2月）では、第1学年体育科「ボール蹴りゲーム」の単元で、体育の指導法について検討を行った。活動量をしっかり確保し、活動が楽しいと思える体育の授業づくりについて学び合いを行った。</li> <li>・校内研究授業の第1回から第3回を通して、同一の講師を招き、一貫した指導・助言を得た。</li> <li>・いずれの校内研究授業も、視点を明確にし、鼎談を利用した活発な研究協議会ができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業については、昨年までと違い、研究テーマや実施教科を決めることはせず、授業者の希望を取って行った。授業を実践した教員は、個人として自己研鑽する機会に恵まれたが、初等部全体としてはより充実させていく必要がある。次年度は、気軽に実施する機運を高めていく。また、指導案の形式も授業者の負担を減らすため、本年度は指定していなかったが、次年度以降は、形式を統一させることを検討する。</li> <li>・「学び合い」について、再度共通理解する機会を設ける。</li> <li>・個人研修授業の取り組み方にも個人差が見られたため、初等部全体で取り組むことを定着させ、事前、事後の研究を充実させていく必要がある。</li> </ul>

9-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の課題が適切に設定され、実施されているか。</li> <li>・教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから教員として豊かに伸びていくために、全員で学び合える研修を充実させる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の研修は、初任者の教員を対象にした研修を行った。初等部のきまりや児童への指導方法についてポイントを学んだ。</li> <li>・通知表・評価研修では、通知表の入力の仕方、留意点についての共通理解を図った。さらに評価基準について検討するポイントを共通理解した。</li> <li>・6月、水泳指導の前に近隣の消防署の方を講師として「救命救急講習」を行い、「心肺蘇生法」を学んだ。</li> <li>・平成30(2018)年度の新たな取り組みとして、「個人研修週間」を作り、授業交流を推進した。40を超える授業の公開・交流があり、初めての試みとしては一定の効果が見られた。</li> <li>・校外研修については、過去にも参加実績がある学校の研究発表会に数名の教員が参加できた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人研修週間は2週間のみ実施したため、同時間帯に複数の授業公開が重なり、希望した授業の参観ができないことがあった。いかに多くの教員が授業公開・交流ができるか様々な工夫を検討する。</li> <li>・校外研修については、本年度と同様積極的に参加できるように呼びかけを行っていく。研修に関する情報を適切に伝達し、研修で学んだことや情報を初等部全体の教員で共有できるようにしていく。</li> </ul>

9-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。</li> <li>・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員としての「資質の向上」、特に「授業力の向上」を目指した教員研修を計画的に実施する。</li> <li>・学年会定例化の推進を図る。学年会は学年主任を中心とした人材育成機能の一端を担う機関とする。</li> <li>・校内研究の活性化を図り、児童理解と授業力の向上に努める。</li> <li>・日頃の教室の見回り、授業参観を実施する。</li> <li>・常に授業公開をし、外部から見学できるようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会の実施を週1回以上とし、会議録をつけ、保管している。</li> <li>・年間を通して経験年数3年未満の教員に対する「研修」を実施した。</li> <li>・経験年数5年未満の教員は必修、他の教員は希望制にして、夏季・冬季休業などの長期休暇に研修を行い、教師力の向上に取り組んだ。</li> <li>・「教育活動目標報告書」の活用を図り、年間2回程度の面談を行った。</li> <li>・週案への職務記述を通して、教員一人ひとりのキャリアステージの向上のためのアドバイスをを行った。</li> <li>・「研究研修推進委員会」による校内研究及び教員研修を通して、教師力の向上に取り組んだ。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員としての「資質の向上」は、必要不可欠の課題であり、今後も魅力ある「教員集団」の育成に努めていく。特に研究・研修を充実させる。</li> <li>・「教育活動目標報告書」を活用し、目標管理手法による人材育成の充実に努める。</li> <li>・高学年において安定した学級経営ができる学級担任の育成が急務であり、外部からの採用と内部からの育成を検討する。</li> <li>・メンターチーム（5年未満）を編成し、若手教員の育成を図る。</li> </ul>



## 10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が学校運営に参画し、協力できる体制を整えているか。</li> <li>・教育ボランティアを集めるシステムができているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事などにおいて保護者ボランティアを集め、積極的に協力してもらう体制づくりを行う。</li> <li>・初等部の教育について、保護者のより深い理解を得られるよう努める。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会・みどり祭・学習発表会といった年間行事、また、学校紹介やオープンスクールにおいて、保護者に協力を仰ぎ、受付等の仕事の担当を依頼した。</li> <li>・毎月「見守りボランティア」を募集し、有志の保護者が下校時の児童の安全確認に努めた。</li> <li>・本の修繕等を担当している「図書館ボランティア」については、3年目に入り、月に2回のペースが定着しつつあり、参加者を平均すると毎回10名程度の保護者の協力を得られた。</li> <li>・みどり祭の片づけを保護者に依頼し、教職員と共に物品の片づけを行った。同様の内容を、運動会でも行った。</li> <li>・初等部の教育活動、特に学校行事に関しては、保護者の協力により円滑に実施できている面もある。協力的な保護者も多いが、一部の保護者に負担がかかっているところもあった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事における保護者ボランティアや、学校紹介における在校生の保護者体験談など、積極的に取り組んでいく。</li> <li>・図書館ボランティアに関して、今後は本の修繕だけでなく、新規購入した本の装備のボランティアなども取り入れていきたい。</li> <li>・今後、働きかけを工夫することにより、一部の保護者ではなく、より多くの保護者が初等部の教育を理解し、学校運営に参画する体制づくりを図っていく。</li> </ul>

10-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開を定期的実施しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に学校を公開し、保護者、地域の方々の初等部に対する理解を得られる体制づくりをする。</li> <li>・保護者、地域の方々との連携を深める。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間3回の授業参観と年間4回の保護者会、年1・2回の個人面談を実施した。</li> <li>・児童募集に関連し、学校紹介を3回とオープンスクールを2回行い、初等部に興味のある方に施設や授業を公開した。</li> <li>・運動会、みどり祭、学習発表会を公開行事として行った。</li> <li>・夏季休業日中に『親子deクッキング』、『親子deプログラミング』を実施し、児童とその保護者が参加した。</li> <li>・学校紹介において授業を公開したり、行事を公開行事にしたりするなどして学校公開を定期的に行った。平成30(2018)年度もオープンスクールの希望者が増えたため、午前、午後とクラスを増やすなどの対応をした。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校紹介における授業公開、行事の公開行事など、次年度以降もより充実したものに改善していきたい。</li> <li>・平成29(2017)年度より開催した『親子deプログラミング』については、保護者のニーズも多かったため、今後も継続し開催するとともに、より充実した内容になるよう検討していきたい。</li> <li>・みどり祭などは地域の方々にも公開を案内しているが、あまり広がりは見られない。その原因の1つとして考えられるのが、初等部の児童に対する警備面・安全面に関することである。学校公開を定期的に行い、多くの方々に初等部を訪れてもらうためには、この点をいかにクリアーしていくかが長年の検討課題である。</li> <li>・学校周辺の方々との連携を図りながら、学校を公開し、より多くの方々に初等部のことを知ってもらうことに努める。</li> </ul>

10-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。</li> <li>・教育相談体制を整備し、児童・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員を対象とした内部評価とともに、児童保護者を含む関係者評価を実施し、学校経営と運営についてのPDCAサイクルの確立と不断の見直しに努める。</li> <li>・年間の保護者会、前・後期面談を通して保護者からの要望を把握し、教育活動に反映させる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活ふりかえり」を1学期と2学期に実施した。児童が健やかに充実した学校生活を過ごせることを目標に、学校における児童の生活実態をつかむことができた。また、児童健全育成委員会で、各学級の課題の把握を行った。</li> <li>・保護者会後の意見等をもとに、保護者からの要望を定期的に収集し、教育活動に適宜反映させた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果について、教員が検討する時間を確保していく。</li> <li>・研究や研修等を通して、教員の授業力向上に努めていく。</li> <li>・保護者の意見に対応するだけでなく、事前に保護者の要望を予測し、事前準備を行っていく。</li> <li>・スクールカウンセラーとより積極的に連携し情報共有していく。</li> </ul>

10-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の教育活動を理解してもらうため、学校全体、学年ごとに便りを定期的に発行する。</li> <li>・遠足や宿泊体験学習などの行事は、詳細な活動内容や費用を書面で知らせる。</li> <li>・行事（入学式、運動会、みどり祭、学習発表会、卒業式など）ごとにお知らせのプリントを発行する。</li> <li>・保護者会を年4回行う。</li> <li>・教材など、費用を要する場合、学年ごとに知らせる。</li> <li>・緊急性を要する場合は、はやぶさメール（学校メール）で知らせる。</li> <li>・個人面談（年2回）、必要に応じて教育相談を設ける。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回、初等部だより（部長のコメント、行事予定など）を状況に応じた内容で発行した。</li> <li>・各学年、必要性に応じて、「学年だより」を発行した。発行部数は、学年に応じて違いがある。</li> <li>・「木もれびの部屋だより」や、「食教育だより」を発行した。</li> <li>・緊急の場合（交通機関の乱れ、災害のため登校や下校を変更する場合は、はやぶさメール（学校メール）で、伝達した。</li> <li>・保護者会は、三部構成（①全体会、②学年会、③クラス会）で実施し、教員が保護者に情報を直接的に話す最適な機会となった。4回目の保護者会のみ、クラス会はなしとなった。</li> <li>・個人を対象にしたものは、個人面談（5月－全員、1月－希望者）を行った。また、必要性に応じて臨時の教育相談も行った。6年生に関しては、希望者に進路進学相談を行った。受験前の12月が多かった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等部だよりの内容を質・量的な面から拡大する。</li> <li>・今後も保護者会の内容の創意工夫を行い、保護者との信頼関係を作る機会とする。</li> <li>・行事などのお知らせは、早めに作成し、保護者に周知徹底させる。</li> </ul>

10-⑤	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	・地域の方を講師として招いたり、初等部生から地域に出向いたりし、地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源を活用する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2学年では、生活科の「町たんけん」にて、五社稲荷神社、本郷台方面の商店等を見学し、岩瀬キャンパスの周辺にどのような施設があるのかを実際に見て学ぶことができた。</li> <li>・第3学年では、消防署・警察署・近隣のスーパーマーケット・食品加工工場にて、第5学年では自動車工場にて、社会科見学を行い、神奈川の産業や、地域のくらしを支える仕事について学びを深めることができた。</li> <li>・第4学年は社会科、第6学年は図工科において鎌倉彫を体験し、鎌倉の伝統文化に触れながら彫刻の技能を学ぶことができた。</li> <li>・第3学年、第4学年合同の宿泊体験学習では、大磯にて地引き網体験を行った。地元の方々の協力を得ながら、漁業を体験するとともに水生生物に触れることができた。</li> <li>・第5学年の総合的な学習の時間では、鎌倉駅周辺で校外学習を行った。小グループごとに寺社や商店を訪問し、地域の産業や文化を追求することができた。</li> <li>・第5学年の理科では、鎌倉女子大学が保護している鎌倉固有の「鎌倉メダカ」を飼育する活動を通して、生物の発生の学習を行うことができた。</li> <li>・第6学年の理科では、前年度に引き続き環境教育の一環として日本ナショナル・トラスト協会から講師を招き、歴史的名所や自然的景勝地の保護について学習した。</li> <li>・第6学年の卒業坐禅では、鶴見区の總持寺から僧侶の方を招き、坐禅の仕方と心構えを教わった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統行事のなかで、初等部として関わることのできる行事を見つけ、生活科や総合的な学習の時間において活用していく。</li> <li>・鎌倉彫や總持寺などのように、継続して年間計画に組み込んでいける地域の人材、団体との繋がりを大切にしていく。ナショナル・トラスト協会のように、新たな教育資源を発掘したものを、今後も継続していくよう努める。</li> <li>・本年度から宿泊体験学習を県外で実施することに変更されたが、今後も経由地として神奈川や鎌倉の地域資源を活用していく。</li> </ul>

10-⑥	・教育実習生の受入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	・教育実習生の受け入れを通して、次世代の学校教育に貢献・寄与するとともに、指導担当教諭及び関係教諭の教科指導力と生活指導力、教材研究力をよりいっそう高める機会とする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉女子大学から5名、他大学から1名の教育実習生を受け入れた。</li> <li>・「初等部教育実習計画」(B4版8頁)を作成し、在籍大学の目的に沿った実習の実現に努めてきている。</li> <li>・授業参観及び授業研究並びに学級経営を通して、教科指導と生活指導の基本とともに、教材研究の仕方が身に付けられるように取り組んだ。</li> <li>・指導担当教諭と共に、児童委員会活動やクラブ活動はもとより、諸会議にも参加し、広く小学校教諭の職務についての理解を図った。</li> <li>・既定の実習期間で在籍大学の目的に沿った実習が実現できた。</li> <li>・教科指導や生活指導の基本、教材研究の仕方についての理解にとどまらず、小学校教育の意義や教職に従事する者の心構えについても体験的に理解を図ることができた。</li> <li>・指導的役割を果たす過程で、指導担当教諭の教師力や学級経営力の向上にもつながることができた。</li> <li>・指導教諭担当者の幅を広げ、一部の教諭に集中していた負担感を分散・軽減することができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習生にとっても、また初等部にとっても実効性のある教育実習とするために、指導担当教諭の養成について検討していく。</li> <li>・指導担当教諭の負担感を軽減するために、学級受入れから学年受入れにシフトしていくことも検討する。</li> <li>・指導案の書き方や勤務・服務姿勢など、在籍大学での実習前の授業(指導)の在り方が課題であると感じるため、大学と連携下指導方法を検討していく。</li> </ul>

## 11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動についての説明会を実施したり、学校案内を配布したり、ホームページを活用するなど、学校に関する様々な情報が、多様な媒体を用いて分かり易く、かつ適切な分量で提供されているか。</li> <li>・ホームページに校長名、学校の所在地、連絡先、学級数、児童数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。</li> <li>・児童等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入学生90名の確保を達成できるように、情報収集や広報活動の積極性を高めていく。</li> <li>・一人でも多くの方に本学の良さを伝えるため、情報フェアや学校紹介、オープンスクール等の持ち方や取り組みを検討し、募集力向上につなげる。</li> <li>・園・塾まわりの対象を増やし、学校の魅力を伝える内容を説明に盛り込む。</li> <li>・ホームページの内容やレイアウトを工夫し、情報や写真などを一新する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動を活性化させていくための具体的改善策として、2018年度も「入試広報組織」を設け、全教職員で取り組むためのしくみを作った。</li> <li>・私立小学校フォーラム、私立小学校フェア、私立小学校湘南フェスタ等に参加した。公開授業や模擬授業などに取り組み、初等部の教育について広報した。</li> <li>・6月・7月にオープンスクールを実施した。授業と入学試験の2通りの内容を年中・年長コースに分けて企画し、実施した。2018年度もWEBによる申し込みシステムを続行した。事後アンケートではおおむね満足との結果が多く見られた。</li> <li>・特に、7月のオープンスクール「テストにチャレンジ」は、参加希望者が多かったため、午後の部も開催し、内容を短めに凝縮したミニコースについても設定し、通常コースと並行して実施した。ミニコースでは、初等部の教育、施設公開を目的として、初等部の教員との交流を目指した内容で行い、多くの園児が参加した。</li> <li>・学校説明会の回数や曜日、実施方法について検討を加え、新たな学校説明会（2019年2月末）の開設に取り組んだ。</li> <li>・5月・9月に実施する学校紹介については、2回の学校紹介の来場者総数は約270組となった。</li> <li>・夏季休業日期间中に幼稚園や幼児塾などを訪問し、学校の広報に努めた。</li> <li>・幼児教室への挨拶まわりを拡大させるとともに、1年生と2年生の出身園への学校案内と行事案内の送付に取り組んだ。</li> <li>・ホームページを定期的に更新し、ブログを活性化させた。</li> <li>・WEB版初等部だよりについては、更新までの流れを活性化できるよう担当者同士の連携を効率化し、前年度より更新の回数を増やすことができた。</li> <li>・全教職員による「今一つ丁寧な指導、今一步誠実な保護者対応」を通して、在籍児童家庭の入学推薦意識の高揚に取り組んだ。</li> <li>・「全教職員による入試広報活動」の意識が浸透してきた。</li> <li>・平日いつでも学校を見学できることを発信し、多くの来校者に対応した。</li> </ul>

今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・更に多くの志願者を確保するため、常に競合校の動向調査を進め、来場者に対してはより丁寧で温かさのある対応を行っていく。</li><li>・学校紹介やオープンスクール参加者が出願・受験へとつながる工夫を行う。</li><li>・入試広報委員会の定期実施によって検討と起案を推進していく。</li><li>・前年度の実施活動に加え、改革の1つとしてWEB版初等部だよりも特別な行事以外の、日常の様子（授業や児童の普段の様子、教員紹介など）を加えていくことが挙げられる。この繰り返しによって、閲覧者に新鮮で親しみやすい印象を与えていく。</li><li>・幼児教室のリサーチや訪問回数、情報提供を増やして、強固なつながりを築いていく。</li><li>・教員の児童指導力、教師力の向上を図る。</li><li>・初等部外の広報部門との連携を図り、広報活動の充実にいっそう努める。</li><li>・学校紹介をWEB申込制にする。</li></ul>
---------------	---



11-②	<p>・初等部の募集力向上における支援が適切に行われているか。</p>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等部入試広報担当教員の業務補佐と支援の充実を図る。</li> <li>・募集人員充足に向け、①学校案内制作、②学校説明会運営支援、③ホームページ閲覧者増加支援、④他校の募集動向の比較とその考察、⑤幼児教室に対する募集活動支援、⑥広報媒体への掲載支援を行った。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内、ポスター制作の支援を行った。パンフレット制作会社との連絡窓口となり、撮影内容、撮影日の設定、教職員への周知等から、校正、入稿、納品までの一連のスケジュール調整及び実務の支援をした。制作業者との信頼関係をもとに、限られた予算内で最大限の費用対効果が得られた。</li> <li>・学校紹介、オープンスクール等の募集行事の運営支援を行った。</li> <li>・幼児教室説明会の実施にあたり、幼児教室責任者への連絡、日程調整、資料作成、当日の運営支援を行った。特に2019年2月には、「幼児教室・塾関係者様対象説明会」を新規で実施した。県内約80箇所への開催連絡、資料作成、当日の運営支援を行った。根岸線沿線の個人塾経営者とのつながりを新たに得ることができた。</li> <li>・ホームページへの情報掲載にあたり、委託業者との連絡窓口となった。「毎日授業見学を受け付ける」旨の広報にあたって業者と交渉し、トップページを開きスクロールせずに目に入る場所に表示させることができた。また、2019年度入試用にリニューアルした学校案内用に撮影した写真を活用し、ホームページの写真を差替え、古い情報は新たな情報に書き換え、一部改訂した。</li> <li>・私立小学校選びのムック本『AERA English特別号』の部長インタビュー、英語教育の取材対応、原稿作成について、出版社・制作代理店との連絡窓口となった。取材にあたって卒業生、保護者への協力依頼、また、事前に英語教員との打合せを行い、円滑に取材対応を行うことができた。部長インタビュー記事については抜き刷りを制作し、その後の各種募集行事や幼児教室訪問において有効活用することができた。</li> <li>・他校の募集要項を多角的に調査・比較した。それらを集積データとし、初等部の総合的な募集力の向上のため、出願、考査・面接、合格発表、入学手続きまでの流れをより分かり易く伝えること、また、出願手続きに関して志願者の利便性に配慮することが必要との認識に至った。</li> <li>・「初等・中等接続教育推進プロジェクト会議」を開催した。議題通知、資料作成依頼段階で各部教員と事前に共通認識を持ち、有意義な議論が行えるよう配慮した。幼稚部から高等部までの現状と課題を共有し、各部の戦略的な募集力向上を図った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校紹介、オープンスクール等の募集行事については、その開催にあたり広報の時機を逃さないよう徹底する。初等部入試広報担当教員と連携し、計画的に行う。</li> <li>・学校案内等広報媒体の制作、ホームページの運用については、限られた予算で最大限の費用対効果を得られる様、委託業者との信頼関係の保持に努める。</li> <li>・刷新予定の『児童募集要項』の原稿作成、入稿、納品までのスケジュールを管理し、実務を遅滞なく行う。次年度募集に向けては「2020年度児童募集要項」として変更点・改善点を盛り込み、刷新する予定である。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 幼児教室との信頼関係の構築、保持に努め、教室に通う子どもその保護者に対して、初等部の魅力を発信してもらおう。</li><li>・ 幼稚部・初等部間の進学接続支援に努める。具体的には、幼稚部に特化した授業参観、オープンスクール、その他募集行事の開催通知や雑誌掲載等の情報が幼稚部保護者にもれなく伝わり、効果的に行われるよう運営支援を行う。</li></ul>
--	--

## 12. 教育環境整備

12-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが充実した学習ができるよう、豊かな教育環境を整備する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室、図工室、情報教育実習室、第1音楽室、第2音楽室、理科室、家庭科室（調理室）、多目的学習室、第1・第2学習室などの各種特別教室や室内プール、松本講堂のほか、初等部専用グラウンドも整備され、また、校内に田んぼ等の農園もあり、緑に囲まれた明るい教育環境が整っている。</li> <li>各教室のプロジェクターの有効活用として、「みらいスクールステーション」（学校へICT教育の導入促進と環境改善を図る教育ICTソリューション）を導入し、音声のみではなく、映像なども各教室に同時配信ができるようになっており、委員会からの呼びかけなどに活用された。</li> <li>iPad Proやアップルペンを利用して「体育」や「理科」、「音楽」など子ども同士で動画を撮影して見せ合うなどの活用ができた。また、総合的な学習の時間で動画を編集するなどの活用もすることができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちにとって、より豊かな教育環境となるよう、今後も引き続き施設・設備の充実と改善を行う。併せて、それらの設備を有効に使うための教材の充実も図っていく。</li> <li>図書室の蔵書を格納するスペースがまだ不足している。現在の閉架図書を保管している場所は行事備品を保管している場所と共有しており、空調整備が不十分な倉庫であるため図書の保管には適していない。そのため、蔵書を保管する場所や方法について検討していく。</li> <li>進路進学相談室のパソコンなど、使用頻度が少ない設備については、初等部生の現状を踏まえ、より使いやすい環境整備を行っていく。</li> </ul>

12-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安全を確保する。</li> <li>・施設・設備の機能を維持する。</li> <li>・より快適な環境で児童が学校生活を送れるよう環境整備を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。</li> <li>・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検等業者への委託による環境整備・安全確保等も行った。</li> <li>・空調設備等設備機器の経年劣化による不具合への対応を行った。</li> <li>・屋上防水は1991年竣工から築27年経過し、防水層の経年劣化や目地部分の剥れがみられるため、屋上シート防水工事を行った。</li> <li>・ブロック塀を撤去し、フェンスを設置する安全対策工事を行った。</li> <li>・岩瀬キャンパスに保管している PCB 安定器分別作業、濃度分析を行い、2019 年度初旬には処分完了予定である。</li> <li>・プール棟浴槽内のタイル下地に浮きがみられたため、安全対策工事を行った。</li> <li>・敷地北側法面の安全対策として、大規模な樹木剪定を行った。</li> <li>・創立 80 周年記念事業に備えて、敷地測量調査、ボーリング調査、電波障害調査、地歴調査を行った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。</li> <li>・外壁タイル等の老朽化に伴う補修工事を検討する。</li> <li>・委託業務の内容等が実状に合わせたものになるよう見直しを図る。</li> <li>・創立80周年記念事業として岩瀬の再整備を計画している。その内容を踏まえて設備整備計画を見直し、実行する。</li> </ul>

12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業・特別活動が円滑に行われるよう、教材・教具の整備・点検を行う。</li> <li>・児童の豊かな読書活動を支えるため、図書の充実、図書室の整備を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に一度、教室点検を行い、担当で教具の状況を取りまとめた。</li> <li>・学期末、学年末に倉庫の整理を行い、老朽化した教具・不要になった教具を処分した。</li> <li>・別置図書（学年・特別教室）の配架を行った。</li> <li>・図書館ボランティア（保護者）に図書の補修をお願いした。</li> <li>・別置図書は各教室の担当による整備・補修を行った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教具については、倉庫内に収まりきらない物品や、責任者不明若しくは退職者の物品は、責任者を明確にし、更に細かく、定期的に整備していく。</li> <li>・図書室脇倉庫の半分を、閉架図書として利用しているが、宿泊関係やクラブ関係の物品であふれているため、改めて整理・処分を行う。</li> </ul>

## 13. 事務支援体制

13-①	・初等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
取組目標	・日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切且つ丁寧な対応に努めた。</li> <li>・昼食時における弁当・パン注文の取扱いについては、注文時の集計をこれまで初等部の担任教員から初等・中等教育支援室員に変更、弁当・パンの受け渡し場所もこれまでのカフェテリアから購買部に変更して行った。これらの業務内容の変更については、初等部はもちろん、総務部や担当業者とも連携することで順調に行うことができた。それに伴い、初等部教員の業務負担軽減に貢献した。</li> <li>・業者支払いの勘定伝票や預り金についての新たな帳票を、引き続き初等・中等教育支援室で作成し、事務処理の合理化・厳格化をいっそう進めることができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も外部との対応に関して、引き続き適切且つ丁寧な対応を心掛ける。</li> <li>・預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図る。</li> <li>・パン注文の取扱いについて、業者への補てん金をこれまで以上に減額するため、パンの価格や内容の見直しを行う予定である。</li> </ul>

## 14. 自己点検・評価

14-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価が年に1回以上定期的実施されているか。</li> <li>・全教職員が評価に関与しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に一度、学校全体で1年間の教育活動を振り返り、次年度更に充実した教育活動が行われるよう、それぞれの校務分掌に沿って自己評価をする。</li> <li>・全教職員が自己点検に関われるよう担当の割り振りをする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌に沿って、担当を割り振り1年間の教育活動の自己評価を行った。</li> <li>・それぞれの担当が自己評価をすることで、次年度に向けての教育活動に生かすことができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の担当に対する自己評価だけでなく、他の項目における自己点検にも全教職員が関心を持ち、次年度の教育活動に生かせるようにしていく。</li> </ul>

14-②	・自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
取組目標	・指導と評価の一体化を図るとともに、行事・授業評価を含む学校評価を随時実施し、保護者と教職員の「連携」のもと、「信頼」を構築していく。
取組内容 と成果	・運動会、授業参観の学校評価を実施し、結果を初等部だよりで報告した。 ・保護者の意見は、担任に提出される連絡帳、保護者会、個人面談で把握した。
今後の課題 と改善策	・平成31(2019)年度より、授業改善主任を置き、「授業」をはじめ、「講習や補習など、教育サポート体制」「英語への取り組み、英検、英語教室・英語講習等」の改善を図る。特に授業のあり方については、「授業改善・教育課程委員会」を中心に随時話し合いを行い、教員の授業力向上の意識化を図る。